

授業科目一覧

1. 人文社会系科目

人文社会系科目について

哲学Ⅰ
哲学Ⅰ
哲学Ⅰ
哲学Ⅱ
哲学Ⅱ
哲学Ⅱ
倫理学Ⅰ
倫理学Ⅰ
倫理学Ⅱ
倫理学Ⅱ
歴史学Ⅰ
歴史学Ⅰ
歴史学Ⅱ
歴史学Ⅱ
文学Ⅰ
文学Ⅰ
文学Ⅱ
文学Ⅱ
心理学Ⅰ・Ⅱ
心理学Ⅱ
教育心理学
教育学Ⅰ
教育学Ⅰ
教育学Ⅱ
教育学Ⅱ
教育原理
教育社会学
法学Ⅱ
日本国憲法
社会学Ⅰ
社会学Ⅰ
社会学Ⅱ
社会学Ⅱ
経済学Ⅰ
経済学Ⅰ
経済学Ⅱ
経済学Ⅱ
政治学Ⅰ
政治学Ⅰ
政治学Ⅱ
政治学Ⅱ
地域研究Ⅰ
地域研究Ⅰ
地域研究Ⅱ
地域研究Ⅱ
哲学と現代Ⅰ
哲学と現代Ⅱ
西洋社会史Ⅰ・Ⅱ
日本政治論Ⅰ
日本政治論Ⅱ
社会システム論Ⅰ
社会システム論Ⅱ
都市経済学
産業と規制の経済学
教育システム論Ⅱ
選択日本事情A
選択日本事情B

（１）人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

目標

- 1) 選択必修科目では、人文・社会諸分野の多様な科目を履修し、幅広い視野から社会や文化との関わりの中に科学・技術を位置づける。
- 2) 上級科目では、少人数で双方向的な密度の濃い授業形態をとり、人文・社会諸分野のより高度な問題設定に取り組み、さらに視野を拡大する。
- 3) 自ら問題を発見し、それに答えていくという積極的学習態度の基盤を形成する。
- 4) 専門諸学の基礎となる論理的思考力と言語運用能力を養う。

2. 科目の内容

- 具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

3. 履修上の注意

- 人文社会系選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ (月曜1限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

相対主義と普遍主義

古くから存在する相対主義と普遍主義の対立を、さまざまな分野について検討、考察し、現代では無意識のうちにとられがちな相対主義的思考の問題点を浮き彫りにする。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

相対主義、普遍主義

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 相対主義とは何か
- 第2回 さまざまな相対主義
- 第3回 言語相対主義
- 第4回 サビア-ウォーフ仮説
- 第5回 言語の普遍主義
- 第6回 文化相対主義
- 第7回 翻訳と文化
- 第8回 パラダイム相対主義
- 第9回 共約不可能性
- 第10回 科学と合理性
- 第11回 道徳的相対主義
- 第12回 さまざまな道徳説
- 第13回 道徳の普遍
- 第14回 功利主義
- 第15回 まとめ

5. 評価方法・基準

期末試験(約50%)およびレポートの結果(50%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ (月曜2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

優生学は、すでに克服された過去の学問だと思われがちであるが、生殖医療の発達とともに、新しい優生学の台頭が懸念されている。新旧の優生学の異同を明らかにし、生殖医療を巡る倫理のあり方を探る。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

優生学、自己決定権、パーソン

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 優生学とは何か
- 第2回 進化論と遺伝学
- 第3回 ゴールトン
- 第4回 ドイツの優生学
- 第5回 アメリカの優生学
- 第6回 イギリス、フランスの優生学
- 第7回 日本の優生学
- 第8回 新しい優生学
- 第9回 遺伝子診断
- 第10回 受精卵診断
- 第11回 パーソン論
- 第12回 幸福の追求権
- 第13回 自己決定権
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約50%)およびレポートの結果(約50%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy I （金曜2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。環境問題を素材に、事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法、他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

●授業の目的

環境問題は、複雑・多岐にわたるため、そこで語られていることの確実性も一様ではない。専門家、マスメディア、一般市民などが語るさまざまな環境問題についての「言説」を、比較・検証し、確実な情報と不確実な情報を見分ける選択眼を養う。

2. キーワード

救命艇倫理、環境リスク、世代間倫理

3. 到達目標

環境問題はメディアなどを通じて、連日、多種多様な情報が流されているが、専門家によるものも含めて、そうした情報を鵜呑みにせず、丹念に検討する通じて、与えられた情報を吟味し自ら考える能力の獲得を、また自らの考えを他人に伝わる仕方で表現する能力の獲得を目指す。

4. 授業計画

第1～2回 環境倫理学の基礎

第3～5回 ダイオキシン報道をめぐる言説

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 環境リスク論

第9～11回 環境ホルモン問題の再検討

第12回 レポート検討Ⅱ

第13回 世代間倫理

第14回 ディープ・エコロジー

第15回 救命艇倫理

5. 評価方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ Philosophy II （月曜1限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

西洋哲学の基本的な諸問題を分かりやすく解説し、哲学に特有な問題を設定するやり方、その解決への努力を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

懐疑論、自己同一性、功利主義

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 デカルトの懐疑

第2回 世界の実在

第3回 水槽に浮かぶ脳

第4回 現実と夢

第5回 経験機械

第6回 ヘラクレイトスの川

第7回 過程と実在

第8回 記憶と人格

第9回 自己同一性

第10回 自我と観念

第11回 功利主義

第12回 最大多数の最大幸福

第13回 快樂計算

第14回 まとめ

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約50%）およびレポートの結果（50%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ（月曜2限）

全学科 第1, 2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

先端医療の急速な発達に伴って、われわれは従来のやり方では十分に扱えない倫理的問題に直面している。人間の生老病死に関わるこのような問題は、専門家のみに解決を任せることはできず、われわれの人間観・死生観に大きな影響を与える可能性をもっている。本講義では、脳死移植と安楽死という現代の「死」に関わる倫理的問題を取り上げる。

●授業の目的

先端医療の発達に伴う倫理的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

脳死、尊厳死、自己決定、生命倫理

3. 到達目標

脳死、尊厳死にまつわるさまざまな倫理的問題に対して、できるだけ一貫した自らの判断ができるようにする。

4. 授業計画

- 第1回 脳死とは何か：脳死概念の解説
- 第2回 脳死移植の歴史
- 第3回 日本における脳死論議
- 第4回 和田移植の問題
- 第5回 脳死移植に伴う諸問題：免疫系と拒絶反応
- 第6回 免疫系の「自己」
- 第7回 脳死移植をめぐる人間関係
- 第8回 脳死者（ドナー）を「人」として捉える
- 第9回 移植に伴う問題
- 第10回 自己決定の諸問題
- 第11回 <関係>としての死
- 第12回 安楽死の二つの概念
- 第13回 安楽死概念の文化的背景
- 第14回 死の自己決定
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約50%）およびレポートの結果（50%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。先端医療を巡る倫理問題の考察を通じて、考える力、論理的表現の力を養う。

●授業の目的

体外受精を前提にした生殖補助医療をめぐる問題のうち、代理出産、非配偶者間体外受精および受精卵診断を事例として取り上げる。これら先端医療が、従来の人間観、家族間に与える影響の理解を目指す。

2. キーワード

自己決定権、幸福の追求権、パーソン

3. 到達目標

事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法、他人に伝える日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 代理母問題の歴史
- 第2～3回 日本の現状
- 第4回 諸外国の現状
- 第5回 非配偶者間体外受精
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 受精卵診断
- 第9～11回 「生命の選択」と新優生学
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 生命倫理学の問題

5. 評価方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。
小レポート各25%、期末レポート50%。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

倫理学 I Ethics I (月曜日)

全学科 第1年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、告白、マニ教、アンブロシウス、聖書の比喩的解釈、女性

3. 到達目標

アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。本授業では、キリスト教の世界観・人間観を概観してから『告白録』第5巻と第6巻の内容に基づいて、アウグスティヌスの29歳～30歳頃の思想的葛藤について考察する。

4. 授業計画

- 第1回 告白と讃美
- 第2回 神と被造物
- 第3回 人間の罪
- 第4回 神の三位一体と御言の受肉
- 第5回 キリストによる救い
- 第6回 マニ教徒ファウストゥスの無知
- 第7回 マニ教から離れる
- 第8回 カルタゴからローマへ
- 第9回 ローマからミラノへ
- 第10回 アンブロシウスとの出会い
- 第11回 旧約聖書の比喩的解釈
- 第12回 アンブロシウスの説教によってカトリック教会の教えを理解する
- 第13回 結婚と独身生活についての友人アリピウスとの論争
- 第14回 長年連れ添った女性との別れ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学 I Ethics I (金曜日)

全学科 第2・3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アリストテレス、政治学、国制、プラトンの『国家』、妻子・財産の共有

3. 到達目標

アリストテレス著『政治学』第1巻の議論を概観した上で、第2巻の最善の国制の問題を考察し、内容を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 『政治学』第1巻の要旨
- 第4回 『政治学』第2巻について
- 第5回 プラトンの『国家』における妻子、財産の共有の主張
- 第6回 妻子の共有の主張に対する批判
- 第7回 財産の共有の問題点
- 第8回 プラトンの『法律』における国制
- 第9回 カルケドンのパレアスの国制
- 第10回 ミレトスのヒッポダモスの国制
- 第11回 ラケダイモンの国制
- 第12回 クレテの国制
- 第13回 カルケドンの国制
- 第14回 ソロンによるアテナイの国制。その他の昔の立法家たちについて

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス/山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ (月曜日)

全学科 第1年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、告白、悪の起源、プラトン派、新プラトン哲学、謙遜の道、回心

3. 到達目標

アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。本授業では、キリスト教の世界観・人間観を概観してから『告白録』第7巻と第8巻に基づいて、アウグスティヌスの31歳から32歳の時の回心に至るまでの時期の問題について考察する。

4. 授業計画

- 第1回 告白と讃美
- 第2回 神と被造物
- 第3回 人間の罪
- 第4回 神の三位一体と御言の受肉
- 第5回 キリストによる救い
- 第6回 悪の起源の問題（1）
- 第7回 悪の起源の問題（2）
- 第8回 プラトン派（新プラトン派）の書物との出会い
- 第9回 神（真理）を見る体験—新プラトン哲学的見神体験
- 第10回 御言の受肉による謙遜の道
- 第11回 修辞学者ウィクトリヌスの回心についての話
- 第12回 修道者アントニウスの生涯についての話
- 第13回 アウグスティヌスにおける霊と肉との闘争
- 第14回 回心
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ (金曜日)

全学科 第2・3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アリストテレス、政治学、国民、国、国制、王制、貴族制、僭主制、寡頭制、民主制

3. 到達目標

アリストテレス著『政治学』の第1巻と第2巻の内容を概観した上で、第3巻に基づいて、国民、国民的徳、国、国制とその分類などについて考察し、内容を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 『政治学』第1巻の要点
- 第4回 『政治学』第2巻の要点
- 第5回 『政治学』第3巻について
- 第6回 国民（1）
- 第7回 国民（2）
- 第8回 国民的徳
- 第9回 国制の定義
- 第10回 国制の分類—王制・貴族制・「国制」と僭主制・寡頭制・民主制
- 第11回 国の主権者の問題（1）
- 第12回 国の主権者の問題（2）
- 第13回 王制とその形態（1）
- 第14回 王制とその形態（2）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス/山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

歴史学Ⅰ 月曜1・2限

(History I、 the 1st and the 2nd period、 Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現代日本の食文化の中にあたりまえのように存在する「モノ」(コーヒー・紅茶・砂糖)の歴史をたどる。この「モノの歴史学」では、一つの「モノ」の流通を追いつつながら、国の枠を越えたグローバルな視野で、食文化の発生・伝播、商人、航海、交易ルートなどを検討する。16世紀にイスラム圏から西洋に広がったコーヒー飲用は、その後ヨーロッパ商人の手を介してアジアへ、やがて長い時間をかけて日本まで伝わってくることになる。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(コーヒー)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。

●授業の位置づけ

エチオピア原産のコーヒー飲用の文化は、アラビア半島、地中海、ヨーロッパ、そしてアジア、アメリカ大陸へと数百年の間に広がっていった。この歴史を追いつつながら、地球規模の文化伝播・市場成立に関する問題を考えていく。

2. キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「コーヒー」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解する。コーヒーの流通・伝播を通じてグローバルな視野で16-18世紀の世界の歴史を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠を示しながら自分の考えをレポートで表現する。時間内に一定量の歴史に関する文章をテストで記述する。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは？・個別事例コーヒー
- ③理論・個別事例コーヒー
- ④中世の地中海交易イタリア
- ⑤中世の地中海交易オスマン・コーヒールートの確立
- ⑥アラブ世界とコーヒー
- ⑦小テスト
- ⑧大航海時代：1 ポルトガル・スペイン
- ⑨大航海時代：2 中核国の推移・小テスト解説
- ⑩大航海時代：3 オランダ・イギリス
- ⑪世界市場とステープル・ヨーロッパへのコーヒー伝播
- ⑫コーヒーハウス
- ⑬植民地の時代
- ⑭コーヒープランテーション
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。期末時にレポートを提出する。

●成績評価

小テスト 20% 2問(各10点)、レポート(20%)
 期末テスト 60% 3問(各20点)
 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』中公新書、1992年。
 081C-11095

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Mon2kit@aol.com

歴史学Ⅰ 金曜2限(History I、 the 2nd period、 Friday)

全学科 2年次以上 前期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15世紀末から18世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(茶)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。課題レポート、論述形式のテストに取り組むことで、文章表現力、論理的な思考能力を高める。自主的に資料を調査、収集するための基礎知識を身につける。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「茶」「自由課題」「表現力」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解する。茶の流通・伝播を通じてグローバルな視野で中世から近世の世界の歴史を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠をあげて自分の考えを示す。時間をかけたレポート作成とともに、テスト形式で時間内に一定量の歴史記述を行う。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは？・個別事例：スパイス
- ③理論・個別事例：茶
- ④大航海時代：1 ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代：2 中核国の推移
- ⑦大航海時代：3 オランダ・イギリスの勃興
- ⑧レポート・論述作成・資料調査ガイダンス
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖
- ⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地：過去・現在
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

レポート① 20%
 レポート② 30%
 期末テスト 50%
 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998年。081C-1596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Mizuikit@aol.com

歴史学Ⅱ 月曜1・2限

(History II、the 1th and the 2nd period、Monday)

全学科 1年・2年 後期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代（近世・近代）に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっている。年表にあらわることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18世紀末から19世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心に見ていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「文化史」「近世近代」「イギリス」「ロンドン」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②都市という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な都市の歴史事例を学び、当時の都市に生きた人々の日常を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠をあげながら自分の考えをレポートで示す。時間内に一定量の歴史に関わる文章をテストで記述する。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②ヨーロッパとイギリス
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別都市事例 ロンドン 1 成立過程
- ⑥ “ 2 都市社会構造
- ⑦ “ 3 安定と危機
- ⑧ “ 4 社会分極化
- ⑨小テスト
- ⑩ “ 5 都市文化：演劇
- ⑪ “ 6 都市文化：飲食
- ⑫ “ 7 都市化・工業化
- ⑬個別都市事例 新興都市 1 パース 2 マンチェスター他
- ⑭ “ 2 マンチェスター他
- ⑮期末試験

5. 評価方法

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。期末時にレポートを提出する。

●成績評価・基準

小テスト 20% 2問（各10点）、レポート 20%
期末テスト 60% 3問（各20点）

6. 履修上の注意

第一回の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』
刀水書房、1999年。233.3/I-1
233.3I-1b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Mon2kit@aol.com

歴史学Ⅱ 金曜2限 (HistoryⅡ、 the 2nd period、 Friday)

全学科 2年次以上 後期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちの「都市」に対するイメージは、ヨーロッパの歴史の中の「都市」とはかなり異なっている。中世の西洋の都市は、一般的に人口1万人程度、高い壁で四方を囲まれ、市門は夜間自衛のために閉ざされていた。誰もが「市民」になれるわけではなく、長い年月をかけて、限られた人間に限られた手段を通してようやく市民権獲得することができたのである。16世紀以降になると、これらの都市の中から、成長を続けて巨大な人口を抱えるようになる大都市が出現する。近現代的な都市の誕生であり、現代人にとっての「大都会」のイメージが徐々に形作られてくる。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会に関して、さまざまな歴史上の都市の事例を学ぶ。それらの事例を個別に学んだ上で、歴史学における重要な考え方である、比較史の方法を学ぶ。さらに、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。課題レポートや論述形式のテストに取り組み、文章表現力と論理的思考力を高める。自主的に資料調査・収集を行うための基礎知識を身につける。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらが西洋で成立した過程を詳しくたどる。「市民として都市で暮らす」ということが、現代日本の我々が持つイメージとは異なり、時間を追って変化してきたことを理解する。また、個別事例では、当時人口が増大し巨大都市化が進んだ点が共通する、近世の江戸・ロンドン・パリという3つの首都を見ていく。その上で、過去のヨーロッパの都市と過去の日本の都市という時空の離れた事例から、「都市」を多角的に捉える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「比較史」「近世の首都」「自由課題」「表現力」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②都市という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な都市の歴史事例を学び、それぞれの都市に生きた当時の人々の暮らしや価値観などを考察する。それらを比較検討し、共通点と相違点を明らかにする。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。証拠を示しながら論理的に自分の考えを表現する。時間をかけたレポート作成とともに、テスト形式で時間内に一定量の歴史記述を行う。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②都市の歴史学
- ③西洋中世都市モデル
- ④3つの首都の人口比較
- ⑤個別都市事例 江戸 1 成立過程
- ⑥ “ 2 都市社会構造
- ⑦ “ 3 身分制社会
- ⑧レポート・論述作成・資料調査ガイダンス
- ⑨個別都市事例 パリ 1 成立過程
- ⑩ “ 2 都市社会構造
- ⑪ “ 3 都市と権力
- ⑫個別都市事例 ロンドン 1 成立過程

- ⑬ “ 2 都市社会構造
- ⑭ “ 3 社会分極化・都市化

⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

- | | |
|-------|-----|
| レポート① | 20% |
| レポート② | 30% |
| 期末テスト | 50% |
- 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』
刀水書房、1999年。233.3/I-1
233.3I-1b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Mizuikit@aol.com

文学 I Literature I

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つか、描かれた「都市」に焦点を当ててアプローチする。

●授業の目的

文章を読むための技術について理解を促す。反覆表現が作家の意識・無意識の読者に向けたサインになっている点を手がかりにする。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変らない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

読解 独創 社会

3. 到達目標

通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

- 第1回 反覆表現読解の実例1（講義ガイダンス）
- 第2回 反覆表現読解の実例2
- 第3回 泉鏡花「夜行巡査」
- 第4回 樋口一葉「十三夜」
- 第5回 田山花袋「少女病」
- 第6回 国木田独步「窮死」
- 第7回 中間試験（作文）
- 第8回 谷崎潤一郎「秘密」
- 第9回 志賀直哉「小僧の神様」
- 第10回 芥川龍之介「舞踏会」
- 第11回 梶井基次郎「檸檬」横光利一「街の底」
- 第12回 中野重治「交番前」堀辰雄「水族館」
- 第13回 江戸川乱歩「目羅博士」織田作之助「木の都」
- 第14回 三島由紀夫「橋づくし」大江健三郎「人間の羊」
- 第15回 筆記試験（期末試験）

5. 評価方法・基準

出席点（10点） 中間試験（作文 800字）（10点）
 期末試験（作文 800字）（80点）
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席重視（3分の2以上出席しなければ期末試験は受けられない）。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・吉田司雄編『近代小説[都市]を読む』（双文社出版 2100円）

●参考書

ガイダンス、および講義中にその都度指示する。

8. オフィスアワー等

文学 I Literature I（金曜2限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 荻原 桂子

1. 概要

●授業の概要

漱石文芸の作品研究を行う。本講義では、主として漱石の初期・中期の作品を取り上げて解説する。まず、小説家漱石の誕生として、『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『草枕』を読み、漱石文芸の形成として、『虞美人草』『坑夫』『夢十夜』を読む。

●授業の目的

漱石文芸の作品研究をとおして、文学に興味と関心をもつようにする。

2. キーワード

漱石文芸、文学事象としての狂気

3. 到達目標

漱石の作品をとおして、日本近代がかかえていた問題に関心をもち、時代のなかで変わっていくものと時代のなかで変わらない人間の普遍的なものを理解する。

4. 授業計画

- 第1回 夏目漱石について（1）
- 第2回 夏目漱石について（2）
- 第3回 漱石文芸の源流
- 第4回 『吾輩は猫である』（1）
- 第5回 『吾輩は猫である』（2）
- 第6回 『趣味の遺伝』
- 第7回 『坊っちゃん』
- 第8回 『草枕』
- 第9回 『二百十日』
- 第10回 『野分』
- 第11回 『虞美人草』
- 第12回 『坑夫』
- 第13回 『夢十夜』
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約80%）および出席状況（約20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

テキストで紹介した漱石の作品については、積極的に読んだうえで講義に出席すること。

7. 教科書・参考書

『増補 夏目漱石の作品研究』

8. オフィスアワー等

ogihara@kwuc.ac.jp（九州女子大学荻原研究室）

文学Ⅱ LiteratureⅡ

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つかという問題にアプローチする。

●授業の目的

異界という概念を軸に人間の想像力の持つ意味をとらえる。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変わらない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

異界 想像力 臨界点

3. 到達目標

通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

- 第1回 反覆表現読解の実例1（講義ガイダンス）（印刷資料を用いて作品読解の方法にふれる。）
- 第2回 反覆表現読解の実例2
- 第3回 泉鏡花「龍潭譚」
- 第4回 永井荷風「狐」
- 第5回 佐藤春夫「西班牙犬の家」
- 第6回 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
- 第7回 中間試験
- 第8回 芥川龍之介「奉教人の死」
- 第9回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」夢野久作「瓶詰の地獄」
- 第10回 梶井基次郎「Kの昇天」萩原朔太郎「猫町」
- 第11回 中島敦「狐憑」井伏鱒二「へんろう宿」
- 第12回 太宰治「魚服記」岡本かの子「川」
- 第13回 川端康成「水月」
- 第14回 井上靖「補陀落渡海記」
- 第15回 筆記試験（期末試験）

5. 評価方法・基準

出席点（10点） 中間試験（作文 800字）（10点）

期末試験（作文 800字）（80点）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席重視（3分の2以上出席しなければ期末試験は受けられない）。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・高橋広綱編『近代小説[異界]を読む』（双文社出版 2000円）

●参考書

- 1) トドロフ『幻想文学』（ちくま学芸文庫）
- 2) サルトル『想像力の問題』（人文書院）

8. オフィスアワー等

文学Ⅱ LiteratureⅡ（金曜2限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 荻原 桂子

1. 概要

●授業の概要

漱石文芸の作品研究を行う。本講義では、主として漱石の中・後期の作品を取り上げて解説する。中期の作品として『三四郎』『それから』『門』を読み、後期の作品として『彼岸過迄』『行人』『心』『道草』『明暗』を読む。

●授業の目的

漱石文芸の作品研究をとおして、文学に興味と関心をもつようにする。

2. キーワード

漱石文芸、文学事象と狂気、西洋と日本近代

3. 到達目標

漱石の作品をとおして、日本近代がかかえていた問題に関心をもち、時代のなかで変わっていくものと時代のなかで変わらない人間の普遍的なものを理解する。

4. 授業計画

- 第1回 夏目漱石について（1）
- 第2回 夏目漱石について（2）
- 第3回 『三四郎』（1）
- 第4回 『三四郎』（2）
- 第5回 『それから』
- 第6回 『門』
- 第7回 『彼岸過迄』
- 第8回 『行人』
- 第9回 『心』（1）
- 第10回 『心』（2）
- 第11回 『道草』
- 第12回 『明暗』
- 第13回 漱石文芸のゆくえ
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約80%）および出席状況（約20%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

テキストで紹介した漱石の作品については、積極的に読んだうえで講義に出席すること。

7. 教科書・参考書

『増補 夏目漱石の作品研究』

8. オフィスアワー等

ogihara@kwuc.ac.jp（九州女子大学荻原研究室）

心理学Ⅰ・Ⅱ (金曜2限) PsychologyⅠ・Ⅱ

全学科 第2、3年次 前期・後期 選択必修 2単位
担当教員

1. 概要

●授業の概要

現代の心理学は、「脳と心の科学」とも言われているように、脳科学の成果と密接な関係をもっています。その理由は、いわゆる"心"が脳の働きだからです。一方、人間が集団を構成して生きている社会的動物である以上、他の個体（他者）の心の理解なしには生きていけません。そのためには、脳と心についての科学的な知識が不可欠です。本講義では、心理学と脳科学のつながりや心理学の学際性を強調しつつ、現代心理学の主要なトピックを取り上げて講義します。

●授業の目的

実験心理学や認知心理学の成果を中心に、現代心理学の主要なトピックを講義し、脳と心についての理解を深めることを目指します。

2. キーワード

脳と心の科学、学際科学、認知と行動、経験科学／非経験科学

3. 到達目標

現代心理学の基礎知識（現象と理論）や「心と行動」を科学的に理解する方法を理解すること。

4. 授業計画

- 第1回 講義のオリエンテーション
- 第2回 科学の歴史と心理学の誕生
- 第3回 現代心理学の特徴、研究課題、研究方法
- 第4回 心の生物学的基礎（ビデオ学習）
- 第5回 視覚過程：サイクロピアンアイと視方向
- 第6回 眼と脳の視覚情報処理
- 第7回 音の知覚と聴覚系
- 第8回 記憶の仕組み（1）
- 第9回 記憶の仕組み（2）
- 第10回 知識表現
- 第11回 言語系の働き
- 第12回 感情の仕組み
- 第13回 講義のまとめ
- 第14回 試験
- 第15回 予備日

5. 評価方法・基準

期末試験（約40%）および出席点（20%）コメントカードの内容評価（約40%）で評価します。

6. 履修上の注意事項

毎回、授業の終わりにコメントカードを書いてもらいます。内容は、講義についての質問・感想・意見・関連事項・授業評価などについてです。質問の中で重要なものがあれば、次回の講義でとりあげます。コメントカードの提出は単位認定の必須条件なので、毎回必ず提出してもらいます。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布し、パソコン・スライドやビデオを教材として使います。

8. オフィスアワーなど

非常勤講師なのでオフィスアワーはありませんが、脳と心の科学、心理学や心理学の大学院進学について質問があれば、コメントカードを利用してください。

心理学Ⅱ PsychologyⅡ

全学科 第1年次 後期 選択必修 2単位
担当教員

1. 概要

●授業の背景

脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。脳は、以前に考えられていたようなブラックボックスでは決してない。脳を知ることが、生きる意味を知ることにつながる。その知識を、認知科学としての現代心理学は与えてくれる。

●授業の目的

“意識とは何か”を統一テーマに最近の脳科学の諸知見を交えながら心理学のさまざまな研究分野を紹介していく、最終的には現代における人間理解に役立つような講義にしたい。

●授業の位置付け

人間に関わる他の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

脳科学、行動科学、認知科学

3. 到達目標

意識を科学的に理解すること。それは、心理学に最低必要な知識の習得でもある。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳と心1 脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。
- 第3回 脳と心2
- 第4回 視覚的意識1 意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。
- 第5回 視覚的意識2
- 第6回 視覚的意識3
- 第7回 視覚的意識4
- 第8回 無意識の再考1 分割脳、幻肢、あるいは、共感覚等を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく。また、神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。
- 第9回 無意識の再考2
- 第10回 無意識の再考3
- 第11回 無意識の再考4
- 第12回 情動と意識1 意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生理学の諸知見を交えて考察する。
- 第13回 情動と意識2
- 第14回 情動と意識3
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

配布資料は常に持参すること、ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない、適宜資料を配付する。

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mailアドレス gishin@std.mⅡ.kurume-u.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mailアドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育学Ⅰ 月曜2限

(Pedagogy I, the 2st period, Monday)

全学科 2年 前期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

「家族と教育」に焦点を合わせる。普遍的な現象と考えられがちな「家族」であるが、その形態や機能は、時代や文化によって様々に変化する。本講義では、「家族」が有する形態や機能を理解したうえで、現代日本の「家族」を取り巻く諸問題について考察を深められるようにする。

●授業の位置付け

まず、時代及び文化による「家族」のあり方の多様性について講義する。その上で、現代我々が自明視している「家族」が登場する過程について概観する。そして、現代家族が持つ教育機能とともに、それを取り巻く多様な問題群について考察を深められるようにする。

2. キーワード

近代家族 少子化 性別役割分業

3. 到達目標

- ①家族に関して相対的・批判的な思考方法を獲得できるようにする。
- ②現代家族を取り巻く諸問題について、自らの思考や考えを深められるようにする。

4. 授業計画

- 1回 家族とは
- 2回 近世以前の家族と子ども（西洋）
- 3回 近世以前の家族と子ども（日本）
- 4回 現代家族と教育
- 5回 少子化の原因と対策
- 6回 男女共同参画と家族
- 7回 児童虐待
- 8回 DVと高齢者虐待
- 9回 生殖技術と家族
- 10回 家族と法
- 11回 現代の家族政策
- 12回 新しい家族のカタチ（1）
- 13回 新しい家族のカタチ（2）
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法

●授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

●成績評価

小レポート 30%

期末レポート 70%

6. 履修上の注意

第1回目の授業で説明する。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書 379.9/H-3

山田昌弘『パラサイトシングルの時代』ちくま新書 367.4/Y-1

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

教育学Ⅰ 金曜 2 限 (Pedagogy I, the 1st period, Friday)

全学科 2年・3年 前期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

様々に噴出する現代日本の教育問題について、その原因や対策を臨床教育社会学の立場から講義する。講義を通して、現代日本の教育問題に対する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している教育言説を相対化しうる視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置付け

本講義では、臨床教育社会学という立場から教育問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

教育問題・教育病理 臨床教育社会学 社会問題の構築主義

3. 到達目標

- ①現代日本の教育問題に関する理解を深める。
- ②教育問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な教育言説を相対化する視点を得る。
- ③レポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

- 1 回 臨床教育社会学と社会問題の構築主義
- 2 回 子どもの「問題」行動（１）－少年非行－
- 3 回 子どもの「問題」行動（２）－自殺－
- 4 回 子どもの「問題」行動（３）－性非行と薬物乱用－
- 5 回 学校を巡る「病」（１）－不登校と公教育の揺らぎ－
- 6 回 学校を巡る「病」（２）－教師生徒間関係の揺らぎ－
- 7 回 学校を巡る「病」（３）－カリキュラムのポリティクス－
- 8 回 子ども・若者と社会（１）－「ニート」とは誰か？－
- 9 回 子ども・若者と社会（２）－児童虐待と監視される家族－
- 10 回 子ども・若者と社会（３）－「居場所」を探す子どもたち－
- 11 回 子ども・若者と社会（４）－メディアを巡る攻防－
- 12 回 学校的秩序の揺らぎ（１）－マイノリティと学校教育－
- 13 回 学校的秩序の揺らぎ（２）－ジェンダーフリー教育論争－
- 14 回 学校的秩序の揺らぎ（３）－学校という物語の終焉？－
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

●授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

●成績評価

小レポート 30%
期末レポート 70%

6. 履修上の注意

第 1 回目の授業で説明する。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

荻谷剛彦・志水宏吉『学校臨床社会学』放送大学出版会

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

教育学Ⅱ 月曜 2 限

(Pedagogy II, the 2st period, Monday)

全学科 1年・2年 後期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

近年、「子ども」の位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも「子ども」とは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、「子ども」にまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また「子ども」そのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において「子ども」が生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、少年法改正問題や子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観 少年法 子どもの権利条約 自己決定権 セクシュアリティ

3. 到達目標

- ①「子ども」の相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自らの志向する子ども観や教育観を適切に表現できるようにすること。

4. 授業計画

- 1 回 「子ども」と「子ども観」
- 2 回 「子ども」の誕生（１）
- 3 回 「子ども」の誕生（２）
- 4 回 子どもの権利条約（１）
- 5 回 子どもの権利条約（２）
- 6 回 少年法改正問題（１）
- 7 回 少年法改正問題（２）
- 8 回 子どものセクシュアリティと自己決定権（１）
- 9 回 子どものセクシュアリティと自己決定権（２）
- 10 回 子どもの「安全」は誰が守るのか（１）
- 11 回 子どもの「安全」は誰が守るのか（２）
- 12 回 国家は子どもにどこまで介入できるのか（１）
- 13 回 国家は子どもにどこまで介入できるのか（２）
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

●授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

●成績評価

小レポート 30%
期末レポート 70%

6. 履修上の注意

第 1 回目の授業で説明する。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

教育学Ⅱ 金曜2限 (PedagogyⅡ, the 2st period, Friday)

全学科 2年・3年 後期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的位置へと振り分ける選抜・配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代教育が有する社会的機能を概観した後、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

2. キーワード

選抜・配分 人材養成・人的資本論 教育投資 教育政策・教育改革 高等教育

3. 到達目標

- ①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
- ②そこから、現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
- ③これらを表現できる能力を身につけること。

4. 授業計画

- 1回 教育と社会・経済・政治
- 2回 就学率と教育の発展段階モデル
- 3回 近代日本の教育発展
- 4回 途上国の教育問題
- 5回 個人的投資としての教育
- 6回 社会的投資としての教育
- 7回 教育と市場のメカニズム
- 8回 高学歴化と職業構造の変化
- 9回 教育・職業・ジェンダー
- 10回 戦後日本の教育史
- 11回 教育問題と教育政策
- 12回 現代教育改革の動向
- 13回 日本型学歴主義の展開
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

●授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

●成績評価

小レポート 30%
期末レポート 70%

6. 履修上の注意

第1回目の授業で説明する。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

金子元久・小林雅之『教育の政治経済学』放送大学出版会

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

教育原理 月曜1限

(Principle of Education, the 1stperiod, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

4. 授業計画

- 1回 「教育」及びその近接概念について
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 教授法の変遷に見る教育観
- 4回 「子ども」と「大人」の思想史
- 5回 教育と子育て
- 6回 諸外国及び日本の学校教育制度の概要
- 7回 近代日本の教育の歴史と法制
- 8回 初等教育の現状と課題
- 9回 中等教育の現状と課題
- 10回 高等教育の現状と課題
- 11回 家族・学校・地域の連携
- 12回 不登校といじめ問題
- 13回 児童虐待と少年犯罪
- 14回 現代教育の再構築－情報化社会と生涯学習－
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

●授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

●成績評価

小レポート 30%
期末テスト 70%

6. 履修上の注意

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書・参考文献

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4
斉藤武雄 『工業高校の挑戦』学文社 375.6/S-2

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと

教育社会学 月曜1限 (Sociology of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 後期 選択必修 2単位
担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

- 1回 文化伝達としての教育－育児としつけ－
- 2回 文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
- 3回 エスニシティと教育－人種、民族、国家－
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 メディアと教育
- 6回 現代の子ども文化
- 7回 現代の若者文化
- 8回 少年非行の社会学
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 学力とカリキュラムの社会学
- 11回 学校教育と職業
- 12回 教育政策の変遷と現在
- 13回 学校経営の現代的課題（1）
- 14回 学校経営の現代的課題（2）
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

●授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

●成績評価

小レポート 30%
期末テスト 70%

6. 履修上の注意

教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/S-8
柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 376.3/S-3
志水宏吉『学校文化の比較社会学』東京大学出版会

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

法学Ⅱ Introduction to Japanese Law II

全学科 第1・2年次 後期 選択必修 2単位
担当教員 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観
- 第2回 社会規範の一つとしての法①
- 第3回 社会規範の一つとしての法②－法と道徳
- 第4回 法源
- 第5回 法源
- 第6回 法の種類
- 第7回 法の適用と解釈①
- 第8回 法の適用と解釈②
- 第9回 法と裁判
- 第10回 法と犯罪
- 第11回 法と権利
- 第12回 法と家族
- 第13回 法と個人
- 第14回 法と法学

5. 評価方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

五十嵐 清著 民法入門[改訂2版] 有斐閣 324/I-2
ポケット六法 有斐閣 又は デイリー六法 三省堂

●参考書

- 1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂 [補訂版] 法学 日本評論社 321/N-8
- 2) 三ヶ月 章 著 法学入門 弘文堂
- 3) 山田 晟 著 法学 [新版] 東京大学出版会

8. オフィスアワー等

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

全学科 第1・2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならない時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は、政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは、政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材を与えることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっているのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①－国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③－裁判所・憲法保障

5. 評価方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版〕有斐閣 323.1/I-17

ポケット六法 有斐閣 又は デイリー六法 三省堂

●参考書

1) 清宮 四郎 著 憲法Ⅰ〔第3版〕有斐閣 323.1/K-12

2) 宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ〔新版〕有斐閣 323.1/K-12

3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5

4) 芦部信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店

8. オフィスアワー等

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学Ⅰ SociologyⅠ（月曜日）

全学科 1年～3年次生 前期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

人間の行動、社会そして文化の認識にとって社会科学の理論と経験的（＝実証的）知見は重要である。前期のこの授業では、社会科学の一分野である社会学の応用に焦点をおく。

●授業の目的

異なる社会の差異と類似性を観察し、それらの比較社会的な分析によって社会現象の出現するメカニズムを学ぶ。

●授業の位置づけ

この授業を通して、現代の人間行動、社会、そして社会にかんする認識を深め、論理的な思考と社会的な表現の基礎を学ぶ。

2. キーワード

動機、価値志向、価値意識、逸脱、経営、社会階層、権力、政治、文化

3. 到達目標

現代のマスコミ、親族、社会階層、社会組織、教育、福祉、犯罪、政治、国際関係等についての基礎的な知識を習得し、現代社会についての認識を深める。

4. 授業計画：

- 第1回 導入講義
- 第2回 マスコミ 1
- 第3回 マスコミ 2
- 第4回 犯罪 1
- 第5回 犯罪 2
- 第6回 自殺
- 第7回 親族 1
- 第8回 親族 2
- 第9回 教育と社会階層 1
- 第10回 教育と社会階層 2
- 第11回 宗教と社会 1
- 第12回 宗教と社会 2
- 第13回 政治と社会 1
- 第14回 政治と社会 2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験と普段の努力（レポートを含む）を評価する。前者60%、後者40%の割合で、100点満点の60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会学Ⅰ SociologyⅠ (金曜日2限)

全学科 2年～3年次生 前期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会システム構造と過程にかんする諸理論の応用を特に政治社会学に焦点をおいて学ぶ。

●授業の位置づけ

これは選択必修の「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。政治社会学の諸理論とその応用を学ぶことを通して、現代社会にかんする視野を広げ、あわせて社会科学的な認識能力と表現能力を修得することをめざす。

2. キーワード

産業化、都市化、民主化、都市化、社会階層、社会組織、権力、国家、社会的選択、象徴、文化

3. 到達目標

政治社会学の基礎概念と基礎理論を学び、政治現象についての異なる見方・議論を理解し、現象を評価する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 普遍的な権力現象
- 第2回 社会と国家
- 第3回 社会階層
- 第4回 利害と組織
- 第5回 選挙と政党
- 第6回 投票行動
- 第7回 議会と権力
- 第8回 官僚制
- 第9回 司法と権力
- 第10回 象徴・文化と政治
- 第11回 社会的選択(1)
- 第12回 国際関係
- 第13回 正義・公正・公平
- 第14回 社会的選択(2)
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(20%)、授業中の積極性(30%)、レポート(50%)で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。授業では演習での課題達成とプレゼンテーションが要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー(面談時間)等

井上の研究室(共通教育研究棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会学Ⅱ SociologyⅡ (月曜日)

全学科 1年～3年次生 後期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

人間の行動、社会そして文化の認識にとって社会科学の理論と知見は重要である。後期のこの授業では、社会科学の一分野である社会学の基礎理論に焦点をおく。

●授業の目的

社会学の基礎理論として、行為(意思決定を含む)、相互作用(ゲーム理論を含む)、集合行為(集団と組織と社会ネットワークの理論を含む)、制度と規範、社会構造、複合社会システム、文化の基礎概念と基礎理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

この授業を通して、人間と社会と文化についての論理的な思考と社会学の基礎理論を学ぶ。

2. キーワード

意思決定、ゲーム理論、紛争、集合行為、権力、制度、社会構造、文化、社会的選択

3. 到達目標

基礎概念を理解すること、意思決定の問題を解くことができること、相互作用を含む社会過程の基本モデルを理解できること、集合体と社会階層についての理論を理解できること。

4. 授業計画:

- 第1回 導入(自由と秩序、正義と多様性)
- 第2回 行為・相互作用・社会構造・制度・文化
- 第3回 個体の意思決定
- 第4回 コミュニケーション相互作用
- 第5回 相互作用(ゲーム理論)
- 第6回 相互作用(ゲーム理論)
- 第7回 社会構造とコミュニケーション
- 第8回 集合行為論と資源動員論
- 第9回 組織とネットワーク
- 第10回 資源配分と権力
- 第11回 制度・規範・文化
- 第12回 社会的選択(集合体の意思決定)
- 第13回 複合社会システム
- 第14回 複合社会システム
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験と普段の努力(レポートを含む)を評価する。前者60%、後者40%の割合で、100点満点の60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。

7. 教科書・参考書

授業の最初に、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー(面談時間)等

井上の研究室(共通教育研究棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ (金曜日2限)

全学科 2年～3年次生 前期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会システム構造と過程にかんする諸理論の応用を特に計量社会学的方法に焦点をおいて学ぶ。

●授業の位置づけ

これは選択必修の「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。計量社会学の方法とその応用を学ぶことを通して、社会科学的な観察と分析の能力を学習し、あわせて表現能力を修得することをめざす。

2. キーワード

社会調査、クロス表分析、回帰分析、ブール代数分析

3. 到達目標

計量社会学の基礎理論と方法を学び、社会現象の計量分析を通して社会を分析する能力と、あわせて表現と発表の技法を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 行動の分布
- 第2回 社会調査
- 第3回 態度のクロス表分析
- 第4回 態度のクロス表分析
- 第5回 推測と検定
- 第6回 投票行動の回帰分析
- 第7回 投票行動の回帰分析
- 第8回 教育と社会階層のパス解析
- 第9回 教育と社会階層のパス解析
- 第10回 嗜好と評価の多次元尺度解析
- 第11回 潜在構造分析
- 第12回 分散共分散分析
- 第13回 ブール代数分析
- 第14回 時系列分析
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(20%)、授業中の積極性(30%)、レポート(50%)で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。なお授業では演習での課題達成とプレゼンテーションが要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初と期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー(面談時間)等

井上の研究室(共通教育研究棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。

経済学Ⅰ Economics Ⅰ (月曜1、2限)

全学科 1・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

一国の経済における諸問題及び政府の経済政策を理解するためには経済学、特にマクロ経済学の知識が必要である。本講義ではマクロ経済学の標準的なテーマを取扱う。特に、戦後から現在に至るまでの日本経済の足跡を経済政策とその政策の背景にある経済理論を中心に考察することによってマクロ経済学に対する理解を深める。さらに、これらをベースに国際経済に関する基本理論を学び、日本経済と国際経済の将来について考えてみるのが本講義の目的である。

●授業の位置付け

最近、国際化や情報化の進展に伴い、経済システムも益々複雑になっているが、また経済に関する情報も簡単に入手できるようになった。しかしながら、その内容を理解して、それに対し自分なりの判断ができる人は意外と多くないと思われる。国内外の経済現状を理解するためには本授業で取り扱う諸理論に関する全般的な理解が必要である。

2. キーワード

「GDP」、「財政」、「金融」、「為替」、「景気」

3. 到達目標

- ・一国の経済の仕組みを学ぶことによって国際経済のメカニズムを理解する。
- ・現在われわれが直面している経済問題を分析し、問題解決の糸口を見出す力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 戦後からの日本経済の歩み ①
- 3回 戦後からの日本経済の歩み ②
- 4回 国民経済計算 ①
- 5回 国民経済計算 ②
- 6回 財市場 ①
- 7回 財市場 ②
- 8回 貨幣市場
- 9回 財政金融政策 ①
- 10回 財政金融政策 ②
- 11回 インフレとデフレ
- 12回 国際経済 ①
- 13回 国際経済 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、小テスト(50%)と期末試験(50%)で評価する。

6. 履修上の注意

特になし

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ (金曜2限)

全学科 2・3年 前期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

経済活動を営む各主体はお互いに影響を及ぼしながら様々な意思決定を行っている。本講義では、「ゲーム理論」を通じてその意思決定の相互依存について考察する。特に、実際の経済社会で発生している様々な事例を取り上げ、戦略的思考に対する理解を深めることによって経済主体として合理的な意思決定能力の向上を目指す。

●授業の位置付け

複数の経済主体がそれぞれの目的の実現を目指して相互に依存している状況を認識し、そのような状況の下で戦略的思考法に基づく意思決定のメカニズムを理解する。

2. キーワード

「戦略的思考」、「意思決定」、「不確実性」

3. 到達目標

- ・ゲーム理論の基礎を学び、戦略的行動とは何かを理解する。
- ・様々な経済現象に対して合理的な判断ができる思考力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション：市場と経済
- 2回 ゲーム理論の基礎
- 3回 戦略型ゲーム
- 4回 戦略的思考法
- 5回 展開型ゲーム①
- 6回 展開型ゲーム②
- 7回 交渉ゲーム①
- 8回 交渉ゲーム②
- 9回 繰り返しゲーム
- 10回 情報とゲーム①
- 11回 情報とゲーム②
- 12回 情報とゲーム③
- 13回 まとめ①：経済学とゲーム理論
- 14回 まとめ②

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート（50％）と小テスト（50％）で評価する。

6. 履修上の注意

特になし

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日14：00～16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ (月曜1、2限)

全学科 1・2年 後期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

経済を理解するにあたって最も重要なのは市場メカニズムに対する理解である。本授業ではまず、経済主体の行動理論、特に消費者の行動や生産者の行動に関する理論を学んだ上、その理論に基づいて機能している市場メカニズムについて学ぶ。また、その市場が不完全競争状態である場合どのような問題が発生するか、そして実際われわれが住んでいる社会が抱えている市場構造の問題点について考察する。

●授業の位置付け

近年、社会における様々な現象を分析する研究分野において経済学の概念を導入することが増えている。特に、都市、交通、環境などの分野では費用便益分析、ヘドニック・アプローチやゲーム理論のような経済理論が頻繁に利用されるようになった。これらの経済理論を有効に使用するためには、本授業で取り扱う経済主体の行動理論や市場理論を理解することが不可欠である。

2. キーワード

「効用最大化」、「利潤最大化」、「市場メカニズム」、「不完全競争市場」

3. 到達目標

- ・各経済主体の合理的な行動原理について理解する。
- ・各経済主体の行動が市場の形成や既存市場に与える影響について理解する。
- ・様々な経済問題を常に市場メカニズムに基づいて考える能力を培う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 市場とは何か？
- 3回 需要と供給
- 4回 効率性と公正
- 5回 公共財と外部性
- 6回 消費者の行動 ①
- 7回 消費者の行動 ②
- 8回 生産者の行動 ①
- 9回 生産者の行動 ②
- 10回 市場均衡の理論 ①
- 11回 市場均衡の理論 ②
- 12回 市場理論の応用 ①
- 13回 市場理論の応用 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、小テスト（50％）と期末試験（50％）で評価する。

6. 履修上の注意

特になし。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日14：00～16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ (金曜2限)

全学科 2・3年 前期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

本講義は、新聞やテレビで日々報道されている経済現象を正しく理解するために必要な経済学の基礎知識の習得を目的とする。特に、経済記事や経済関連統計データを用いて日本や世界の経済動向に対する理解を深め、経済主体が実際に直面する様々な経済現象を広い視野をもって分析・判断する能力を養う。

●授業の位置付け

日本や世界経済と関連する時事トピックスとそれに対する経済専門家や政府関係者のコメントを理解し、今我々が置かれている経済状況を分析・判断するために必要な知識を学ぶ。

2. キーワード

「時事経済」、「経済政策」、「日本と世界経済」

3. 到達目標

- ・関連する統計データを収集・分析し、経済の現況を理解する。
- ・時事トピックスを取り上げ、その背景にある経済理論を理解する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ統計と経済の動向 ①
- 3回 マクロ統計と経済の動向 ②
- 4回 マクロ統計と経済の動向 ③
- 5回 経済政策 ①
- 6回 経済政策 ②
- 7回 経済政策 ③
- 8回 企業と経済 ①
- 9回 企業と経済 ②
- 10回 日本経済 ①
- 11回 日本経済 ②
- 12回 日本と世界 ①
- 13回 日本と世界 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート(50%)、小テスト(50%)で評価する。

6. 履修上の注意

特になし

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日14:00~16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

政治学Ⅰ Political ScienceⅠ

全学科 第1・2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書(の抜粋)などの比較的読みやすいプリントや視覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネットなども活用)、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチとその実例への適用の仕方を理解することが目標である。特に、(切り離してイメージされがちな)日常生活と政治現象の間の結びつきについて理解を深める。また、発表・討論などにより、多方向的なコミュニケーションの能力の養成をはかる。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明。
- 第2回 ことばと政治 シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む。
- 第3回 ことばと政治 「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む。
- 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
- 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(1)。
- 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(2)。
- 第7回 政官関係・公益法人論など。
- 第8回 戦争と政治(1)。
- 第9回 戦争と政治(2)。
- 第10回 従来の講義の補足と展開。
- 第11回 ナショナリズム論(1)。
- 第12回 ナショナリズム論(2)。
- 第13回 市民的实践とNGO(1)。
- 第14回 市民的实践とNGO(2)。
- 第15回 試験。

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくするのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時~13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ Political Science I

全学科 第2・3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。

本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の運用能力の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチを実例に適用し、多面的な分析と理論的な考察ができるようになること、これらの分析・考察を論理的に表現し、かつ討論により発展させること、が目標である。

4. 授業計画

第1回 本講義の内容と方式の説明

第2回 予備的な講義とディスカッション

第3回 自由主義と民主主義（1）

第4回 自由主義と民主主義（2）

第5回 現実主義（1）

第6回 現実主義（2）

第7回 従来の講義の補足と展開

第8回 政治的責任（1）

第9回 政治的責任（2）

第10回 保守主義（1）

第11回 保守主義（2）

第12回 従来の講義の補足と展開

第13回 自由テーマ（1）

第14回 自由テーマ（2）。

第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science II

全学科 第1・2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。

政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいがら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義。

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチとその実例への適用の仕方を理解することが目標である。特に、（切り離してイメージされがちな）日常生活と政治現象の間の結びつきについて理解を深める。また、発表・討論などにより、多方向的なコミュニケーションの能力の養成をはかる。

4. 授業計画

第1回 本講義の内容と方式の説明。

第2回 教育と政治、民主主義との関連など。

第3回 教育と政治、ケース・スタディ（1）。

第4回 教育と政治、ケース・スタディ（2）。

第5回 教育と政治、ケース・スタディ（3）。

第6回 補足と展開

第7回 開発と補助金政治。

第8回 開発と地方自治。

第9回 戦争責任論。

第10回 開発をめぐる国際政治（1）。

第11回 開発をめぐる国際政治（2）。

第12回 軍事化と平和研究（1）。

第13回 軍事化と平和研究（2）。

第14回 開発教育論など。

第15回 試験。

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験（80％）およびレポートの結果（20％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

全学科 第2・3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。具体的なテーマとしては、グローバリゼーションの下での現代政治の世界的な諸課題を中心に検討する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

ナショナリズム、文明の衝突、多元主義、寛容

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の運用能力の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチを実例に適用し、多面的な分析と理論的な考察ができるようになること、これらの分析・考察を論理的に表現し、かつ討論により発展させること、が目標である。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 ナショナリズム（1）
- 第4回 ナショナリズム（2）
- 第5回 ナショナリズム（3）
- 第6回 文明の衝突？（1）
- 第7回 文明の衝突？（2）
- 第8回 文明の衝突？（3）
- 第9回 従来の講義の補足と展開
- 第10回 多元主義（1）
- 第11回 多元主義（2）
- 第12回 多元主義（3）
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）。
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ （月曜1・2限）

全学科 第1・2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはバプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国については均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1-親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2-普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3-相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1-構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2-構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95％）および出席（5％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特になし。適宜プリントを配布する。
- 参考書
 - 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
 - 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology. Holt, Rinehart and Winston, inc.
 - 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion. Cambridge University Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ (金曜日2限)

全学科 第1・2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国については均一化とローカル化との間きあい具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。フィールド・ワークという調査手法を理解すること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 フィールド・ワークの方法論1：理論編
- 第2回 フィールド・ワークの方法論2：実践編
- 第3回 ニューギニアのダリビ族の民族誌：アナロジックな親族
- 第4回 ニューギニアのダリビ族の民族誌（続き）
- 第5回 ニューギニアのGimi族の民族誌：交代するジェンダー
- 第6回 ニューギニアのPaiela族の民族誌：女が成長のエージェント
- 第7回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌：アナロジックなジェンダー
- 第8回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第9回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌（続き）
- 第10回 ニューギニアのpersonの概念とagentの概念：市場交換システムと贈与交換システム
- 第11回 東南アジアの民族誌：イントロダクション
- 第12回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第13回 東北タイ：生活世界分類と民族生物分類学1
- 第14回 東北タイ：生活分類と民族生物分類学2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るの で注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective、Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂.
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional StudiesⅡ (月曜1・2限)

全学科 第1・2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との間きあい具体的な状況で見るように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期はジェンダー・宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

相対主義的に考えるdispositionを身につけること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 ジェンダー パート1：定義と歴史的背景及びフェミニズムとの関係
- 第2回 ジェンダー パート2：その多様性と解釈
- 第3回 ジェンダー パート3：ポスト・モダンのジェンダー論
- 第4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ上映
- 第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
- 第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか《その①》
- 第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか《その②》
- 第8回 グローバル化を考える4 Hip-Hopの感染力その2
- 第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治疗カルト
- 第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰ー祖先の祟りを巡ってー
- 第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界ー隠喩のフォースー
- 第12回 グローバル化を考える5 ロックの浸透力その2
- 第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念-劇場国家論
- 第14回 東南アジアの伝統的国家概念-銀河政体論
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るの で注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press..
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective、Harvard University Press.
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ (金曜2限)

全学科 第1・2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との聞きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論。

3. 到達目標

相対主義的に考えるdispositionを身につけること。フィールド・ワークという調査手法を理解すること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
- 第2回 呪術論基礎（1）－表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為。
- 第3回 呪術論基礎（2）－呪術の効果を探って。
- 第4回 グローバル化を考える3 Hip-Hopの感染力その2
- 第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。
- 第6回 事例検討2：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の呪術を中心に。因果関係とは何か。
- 第7回 事例検討3：言語行為論－アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力。
- 第8回 グローバル化を考える4 ロックの浸透力
- 第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
- 第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病氣治療
- 第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：妖術と祖先霊
- 第12回 東南アジアの国家論①-19世紀パリの都市国家：劇場国家論。
- 第13回 東南アジアの国家論②-タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論
- 第14回 総括
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るのに注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press..
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy I

全学科 第2・3・4年次 前期 選択 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

虚偽論法、メディア・リテラシー

3. 到達目標

テキストが提出する問題について、担当者を決めて毎時間、発表してもらい、それをめぐって討論する。そのことにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第3回 健康情報番組のウソ

第4回～第6回 リスクとベネフィット

第7回～第9回 フードファディズム

第10回～第12回 警鐘報道の功罪

第13回～第15回 ニセ科学を見破る

5. 評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』（光文社新書）

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy II

全学科 第2・3・4年次 前期 選択 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

生命倫理、環境倫理

3. 到達目標

テキストが提出する問題について、担当者を決めて毎時間、発表してもらい、それをめぐって討論する。そのことにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第2回 日本の環境対策

第3回～第5回 健康不安とは何か

第6回～第9回 環境基準

第10回～第15回 環境の「常識」を再検討する

5. 評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。

7. 教科書・参考書

藤倉良 『環境問題の杞憂』（新潮新書）

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

月曜1・2時間目用／前期と後期

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ 金曜3限

(History of European Society)

全学科 2年以上 前期・後期 選択 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えていく。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。3度のレポート作成・提出を通じて高度な文章表現力、論理的な思考力を要請する。自由課題のもとで各自資料調査、収集、整理作業が必要となり、担当教員のアドバイスを個別に受けながら基本的な調査技能・情報収集能力を身につける。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプロGRESSレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」「自由課題」「表現力」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①調査：インターネットで文献情報を検索し、必要があれば外部図書館を利用する。複数の資料を収集し、多面的に知識を得る。
- ②分析：収集した資料の情報を整理・分析する。これをもとにレポートの構成を考える。目次（章・節のかたち）にして表現する。
- ③プレゼンテーション：参考文献リスト、図表、その他の工夫
- ④オリジナリティ：独自の文体（資料の丸写し不可）、着目点、議論展開
- ⑤プロGRESS（PR2とFRのみ）：PR1以降の進歩

<個別発表>

- ①発表：簡潔にわかりやすく他履修生に自分のテーマを伝える質問に的確に答える。
- ②質疑：発表をよく聞き、的確な質問を考える。わかりやすく質問する。

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プロGRESSレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント

- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プロGRESSレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表
- ⑭ファイナルレポート提出

5. 評価方法・基準

プロGRESS・レポート1	20%	（上記レポート目標①から④）
プロGRESS・レポート2	30%	（①から⑤）
ファイナル・レポート	40%	（①から⑤）
発表および質疑	10%	

*総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1－4』岩波文庫、1999年。
（担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出）

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ Japanese Politics, Past and Present I

全学科 第2・3・4年次 前期 選択 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

各自の関心に基いて問題設定・分析・検証を行ない、分析と考察を論理的に表現できることをめざす。とくに報告と討論により、思考の深化と多面的な認識を形成する訓練を重ねる。これらの作業は、コミュニケーション能力の向上にも当然つながるはずである。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション。
- 第2回 人間性と政治（権力分立の問題など）。
- 第3回 自由・人権観。
- 第4回 戦後社会と管理化（1）。
- 第5回 戦後社会と管理化（2）。
- 第6回 戦後社会と管理化（3）。
- 第7回 東北アジアと日本（1）。
- 第8回 東北アジアと日本（2）。
- 第9回 東北アジアと日本（3）。
- 第10回 補足と展開。
- 第11回 琉球・沖縄と日本（1）。
- 第12回 琉球・沖縄と日本（2）。
- 第13回 宗教と政治（1）。
- 第14回 宗教と政治（2）。
- 第15回 戦争・戦後責任論。

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書 プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present II

全学科 第2・3・4年次 後期 選択 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

各自の関心に基いて問題設定・分析・検証を行ない、分析と考察を論理的に表現できることをめざす。とくに報告と討論により、思考の深化と多面的な認識を形成する訓練を重ねる。これらの作業は、コミュニケーション能力の向上にも当然つながるはずである。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション。
- 第2回 自由主義論（1）。
- 第3回 自由主義論（2）。
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）。
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）。
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）。
- 第7回 市民社会論（1）。
- 第8回 市民社会論（2）。
- 第9回 市民社会論（3）。
- 第10回 補足と展開。
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）。
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）。
- 第13回 厚生行政をめぐる政治（3）。
- 第14回 政治的リアリズム。
- 第15回 日本の戦後政治史をめぐる。

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書 プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

社会システム論Ⅰ Social Systems Theories Ⅰ

全学科 2～4年次 前期 選択 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会のミクロ理論としてのゲーム理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

ゲーム理論をとその応用を学ぶことを通して、社会現象のメカニズムの基礎となる相互作用過程の理解のための理論を学習し、あわせて現代社会にかんする視野を広げることをめざす。

2. キーワード

合理的選択、ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、混合戦略、部分ゲーム完全均衡、情報不完備

3. 到達目標

ゲーム理論の基礎概念と基礎理論を学び、社会的相互作用と制度を分析する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 合理的選択と人間行為
- 第2回 同時決定の場合の戦略ゲーム
- 第3回 最適反応とナッシュ均衡
- 第4回 囚人のジレンマ
- 第5回 マックスミニ戦略とミニマックス定理
- 第6回 混合戦略
- 第7回 クールノーの複占市場
- 第8回 共有地の悲劇
- 第9回 展開形ゲームと情報
- 第10回 部分ゲーム完全均衡とナッシュ均衡
- 第11回 繰り返しゲーム
- 第12回 情報不完備ゲーム
- 第13回 契約と交渉
- 第14回 制度と権力の制御するゲーム
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（20％）、授業中の積極性（30％）、レポート（50％）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

2007（平成19）年度社会システム論は前期と後期に開講するが、いずれか一方のみを履修することができることに注意すること。履修においては、人文社会系選択必修科目の履修を終えているかその見込みがあることが望ましい。部分的に演習形式をとるので主体的な学習が期待される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会システム論Ⅱ Social Systems Theories Ⅱ

全学科 2～4年次 後期 選択 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会の構造理論の一つとして社会ネットワーク理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

社会ネットワーク理論とその応用を学ぶことを通して、社会関係および社会構造一般をネットワーク構造として理解する能力を習得し、あわせて現代社会にかんする視野を広げることをめざす。

2. キーワード

ネットワーク、中心度、クリーク、ブロックモデル、構造ホール、ネットワーク複合、ネットワーク形成、ネットワークゲーム

3. 到達目標

社会ネットワーク理論の基礎概念と基礎理論を学び、社会関係と社会構造を分析する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 ネットワークの考え方
- 第2回 グラフ理論の基礎
- 第3回 中心性
- 第4回 中心性
- 第5回 クリーク
- 第6回 クリーク
- 第7回 ブロックモデル
- 第8回 ブロックモデル
- 第9回 ダイアドアの分布
- 第10回 ネットワーク形成
- 第11回 ネットワーク形成
- 第12回 ネットワークゲーム
- 第13回 社会過程とネットワーク
- 第14回 社会過程とネットワーク
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（20％）、授業中の積極性（30％）、レポート（50％）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

2007（平成19）年度社会システム論は前期と後期に開講するが、いずれか一方のみを履修することができることに注意すること。履修においては、人文社会系選択必修科目の履修を終えているかその見込みがあることが望ましい。部分的に演習形式をとるので主体的な学習が期待される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

都市経済学

全学科 2・3・4年 前期 選択 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

戦後、世界各国において都市化が急速に進行しており、日本の場合人口の約6割以上が都市に居住している。本授業では、我々の経済活動の中心になっている都市を経済学の観点から考えてみる。特に、都市経済学の理論や分析手法を習得することによって都市の形成・立地問題をはじめ、様々な都市問題を考えると同時にその政策に対する理解を深める。

●授業の位置付け

政府や住民が都市に居住しながら直面している様々な問題を理解し、その解決策を考える上で必要な基礎知識を学ぶ。また、外国書（英語）を輪読することによって都市経済学の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

2. キーワード

「都市化」、「立地」、「住宅」

3. 到達目標

- ・都市経済学の基本的な考え方や理論の理解
- ・都市問題に対する諸政策の理解

4. 授業計画

- ① Definitions of Cities and Urban Growth
- ② Aggregate Analysis of Metropolitan Areas
- ③ Land Use Controls
- ④ Housing problems and Policies

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

6. 履修上の注意

特になし。

7. 教科書・参考書

W. T. Bogart (1998), The Economics of Cities and Suburbs, Prentice Hall.の一部を随時配布する。

8. オフィスアワー

火曜日14:00~16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

産業と規制の経済学

全学科 2・3・4年 後期 選択 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

本講義では、産業組織論における多様なテーマを取り扱い、現代の産業や企業の行動を理解するための基礎知識を習得する。特に、「市場メカニズム」の意義と役割に対する理解を通じて、産業組織の問題点やその対策について考察する。

●授業の位置付け

市場の構造や産業政策の影響などを供給サイドから分析することによって市場が有効に機能するために必要な条件に対する理解を深める。また、外国書（英語）を輪読することによって産業組織論の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

2. キーワード

「産業政策」、「企業」、「市場」、「規制」

3. 到達目標

- ・市場経済のメカニズムを産業組織の状況や理論を通じて理解する。
- ・政府による規制や規制緩和など産業政策の重要性を理解する。

4. 授業計画

- ① What Is Industrial Organization ?
- ② Market Structures and Market power
- ③ Perfect Competition, Monopoly and Oligopoly
- ④ Government Policies

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

6. 履修上の注意

特になし。

7. 教科書・参考書

L. B. Cabral (2000), Introduction to Industrial Organization, The MIT Press,

D. W. Carlton and J. M. Perloff (2005), Modern Industrial Organization

の一部を随時配布する

8. オフィスアワー

火曜日14:00~16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

教育システム論Ⅱ Educational Systems Theory Ⅱ

全学科 2年・3年・4年 後期 選択 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システム、福祉システムとの接点に発生する少年非行現象を取り上げ、少年非行の社会的背景やそれが教育システム等に及ぼす影響、通俗的な少年非行言説を批判的に検証する視点を獲得する。

●授業の位置付け

少年非行統計の見方、少年非行の原因論、少年非行の事例研究、教育システム・司法システム・福祉システムと少年非行とのかわりなどについて、順次講義していく。また、参加者には、少年非行問題に関して1回程度プレゼンテーションを求め、それに対し全員で討議する。

2. キーワード

少年非行 少年法 社会問題の構築主義 非行下位文化 アノミー論 ラベリング論

3. 到達目標

- ①少年非行の現状に対する理解を深める
- ②通俗的な少年非行言説を批判的に検証しうる視点を獲得する。
- ③プレゼンテーションやレポート作成など、表現能力を高める。

4. 授業計画

- 1回 少年非行統計の見方
- 2回 現状論（1）－反社会的行動－
- 3回 現状論（2）－非社会的行動－
- 4回 現状論（3）－学校病理－
- 5回 事例研究（1）
- 6回 事例研究（2）
- 7回 事例研究（3）
- 8回 原因論（1）－非行下位文化論－
- 9回 原因論（2）－アノミー論－
- 10回 原因論（3）－ラベリング論－
- 11回 対策論（1）－欧米における少年非行対策の変遷－
- 12回 対策論（2）－日本の少年非行対策の変遷と少年法改正問題－
- 13回 対策論（3）－環境管理と監視社会－
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

●授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

●成績評価

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度 50%
期末レポート 50%

6. 履修上の注意

第1回目の授業で説明する。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

授業の中で適宜指定する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

選択日本事情A

Elective Japanese Culture and Society A

全学科 第2～4年次 前期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する
- ②討議に積極的に参加して考えを深める
- ③異なる文化、社会について理解する。
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2回 学校生活
- 第3回 日本料理と食生活
- 第4回 しつけとマナー、人間関係
- 第5回 若者文化
- 第6回 年中行事
- 第7回 まんが（世界に発信する現代日本文化）
- 第8回 結婚と女性
- 第9回 住宅事情と住文化
- 第10回 宗教と信仰
- 第11回 労働観
- 第12回 社会保障制度
- 第13回 自殺
- 第14回 外国から見た現代日本

5. 評価方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

特になし

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日3限

選択日本事情B

Elective Japanese Culture and Society B

全学科 第2～4年次 後期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

● 授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々のニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価方法・基準

レポート（50％）及び毎回のノート（30％）授業への参加度（20％）で評価する。

6. 履修上の注意事項

特になし

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー等

月曜日3限